

通信小海

テープ、聞かないと損で

す 牧師 水草修治

あなたの家のポストに『イエスの物語』というカセットテープと、『ラブジャパン二〇〇〇』という薄い本が入っていたと思います。南相木村、北相木村、八千穂村、小海町の半分くらいの家々のポストには入っていたはず。この夏シンガポールから来てくれた六人の青年たちといっしょに、家々をまわってポストにこれらのものを入れさせていただきました。

青年たちは、地域の皆さんのやさしさに感激していました。八千穂村役場の駐車場でコンビニ弁当を食べていたら、「これを敷いて食べるのいいよ。」と、おばあちゃん（おばちゃん？）が新聞紙をひろげてく

「今月のみことば」

「空の鳥を見なさい。……野のゆりを見なさい。」

マタイ福音書六章

れたそうです。東京で同じ奉仕をしたときには、考えられなかったことでした。国際親善になりました。また、『通信小海』ならいつも読んでいますよ。牧師さんによろしく。」とおっしゃってくださいました方々ありがとうございます。教会にもおいでください。

みなさんのポストにいったテープ『イエスの物語』はぜひ聞いてみてください。私自身、聞いてみて実にすばらしい。単なる聖書の朗読ではなく、内容的には聖書に忠実ですが、わかりやすく、しかも、たいへん臨場感あふれるドラマチックな仕立てになっています。そこに生き生きとイエス様と弟子たちの交流があり、風の音、ガリラヤ湖の波の音が聞こえてきます。聞かないと損です。ぜひ聞いてみてください。

小海の半分と南牧村、川上村はまだ配っていません。九月には配りたいと思っています。乞うご期待！

日本同盟基督教団 松原湖高原教会 牧師水草修治

牧師館 長野県南佐久郡小海町大字豊里 一六

〒三八四一一三 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

黄色い十字架 パロの五十メートル北

ヤナシヨウの向かい

集会あんない

日曜日

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日

聖書を読む会 午前十時半

祈り会 午後七時半

*初めての方も歓迎します。

*個人的相談にも乗ります。

ほんとうに祝福を受 けたいのなら

「主はその夜、彼に現れて仰せられた。

『わたしはあなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいる。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加えよう。わたしのしもべアブラハムのゆえに。』

イサクはそこに祭壇を築き、主の御名によつて祈った。彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべらは、そこに井戸を掘った。」

創世記二十六章二四、二五節

人はみな幸福になりたいと思つていますし、そのために一生懸命働いたり、一生懸命勉強したりしています。けれども、実際には、「ああ私は幸福だ」という人生を送っている人はほとんどいないのは、どういわけでしょう。それは、神様の祝福がないからです。どんなにがんばっても神様

の祝福がなければ、けつしてほんとうの幸福はありません。

では、神様の祝福を逃しているのはどうしてでしょうか。神様がお定めになった生活の優先順位を見失っているからです。イサクという人の記事を見ると、人生設計において神様から祝福を受ける優先順位がよくわかります。

イサクは第一の優先順位として「祭壇を築き、主の御名によつて祈った。」とあります。祝福ある人生、第一にすべきは神様のみ前に礼拝と感謝の祈りをささげるということです。祝福は真の神からいただくのですから。イサクが優先順位の第二に置いたのは、「そこに天幕を張った」ということです。これは自分の家、家庭のことに配慮したということを意味しています。

そして、優先順位の第三に「イサクのしもべらは、そこに井戸を掘った」とあります。イサクは一族、家畜を引き連れて遊牧の仕事をしていたので、家畜のための水の確保が重要事項だったのです。つまり、神様からの祝福を受ける優先順位の第三番目は仕事です。仕事もまた神様がくださった任務です。

こういわけで、神さまの祝福を受ける人生設計の優先順位とは、第一に真の神さまを礼拝すること、第二に家庭を顧みること、第三に忠実に仕事をするということです。

これで多くの日本人が異常なまでにがんばりながら、幸福を得られない理由が見えてきたのではないのでしょうか。日本人にとっての優先順位の一番目は仕事でしょう。仕事のために奥さんや子どもとの約束を破つて当然と思つている男性は黄色号。定年退職したとき、独りぼつちにされる可能性大です。日本人にとって第二番目が、家庭でしょう。そして第一にすべき真の神さまを礼拝する生活などは念頭にすら上らないという人が多いでしょう。優先順位はまったくさかさま。これでは、神さまも祝福のしようがありません。

悔い改めましょう。ああ幸福だなあといえる人生が欲しいならば。

空の鳥を

野のゆりを

だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいていせつなもの、からだは着物よりたいていせつなものではありませんか。空の鳥を見なさい。種まきもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなた方は、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえ

なさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華をきわめたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあつても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありません。信仰の薄い人たち。

そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こつこつものはみな、天の父なる神を知らぬ人々が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。(主イエスのことば)

主イエスが二千年前ガリラヤの丘の上で語られたことば。なにか解説を、と思ったが、どんな文章を書いてみても蛇足になってしまします。今回は、わかりにくいことばだけ説明しておきます。みことばそのものをよく味わってください。

* ソロモン

紀元前九七三年に即位した古代イスラエル三代目の王。博学多才、行政能力にすぐれ、その治世にはイスラエルでは銀は価値がないとみなされるほど、イスラエルは富み栄え、「ソロモンの栄華」と称せられる。

* 神の国とその義

国とは「支配」とも訳されることば。したがって、神の国を求めよとは、神のご支配の下に生きるように努めよということ。「義」とは神との正しい関係のこと。自分の欲や世間体になりにまわされず、天父の支配のもとに天父との正しい関係を第一に求めて生きよ。そうすれば心配はなにもない。天父があなたのことをご心配してくださる。

おかあさん。ごはんを作つてく

ださい。

「見よ。わたしは戸の外に立つてたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」黙示録三章二十節

耳を疑わせ、目を覆わせるばかりの少年犯罪が二十年ほどの間に報道されるようになっていきます。さまざまな要因があるのでしょうか、その一つは食事ではないかと思えます。「こんな食物は、キレやすくなる。」という栄養面はその道の専門家に任せて、「ここでは心の面を考えましょう。」

非行少年についての調査によれば、彼らの食生活の貧しさが実にきわだっています。非行少年には朝食ぬきで学校へ行く子ども、「孤食」といって家族と食事をともにすることがない子どもが非常に多いのです。飽食の時代、グルメ・ブームなどと

言っても、おかあさんの愛情のこもった食事、家族で囲む楽しい食卓についていえば、現代は実はかつてない飢餓の時代なのかもしれません。逆にいえば、そんな本物の食卓がなくなっているから、フォアグラだキャビアだ霜降りだなどといった偽物で自らを欺いているのではないのでしょうか。名古屋で一人の少年を恐喝して数千万円脅し取った少年グループは、その金で美食のかぎりを尽くしていました。

数年前、「美味しんぼ」という料理漫画が放映されてきました。グルメの主人公史郎は、母を死に追い込んだ父親に憎しみを抱きつつ、しばしば美食家の父、海原雄山と料理対決をします。その度ごとに馳走を目の前に、二人は罵倒し合つのです。筆者は思いました、『あんな気持ちではどんな料理もまずくなるにちがいない。また料理を作つてくれた人にも、同席の人たちにもこの上ない失礼ではないか』と。

「野菜を食べて愛し合つのは、肥えた牛を食べて憎み合つのにまさる。」(箴言五十七)

信仰というのは断食とは関係あつても食

事とはあまり関係ないのではないかという印象をもつ人がいるかもしれません。けれども、聖書にはしばしば神と人、キリストと人との食事による人格的交流がしるされています。旧約時代には十戒を与えられた山に人々は招かれて神の御前で食事をしましたし、新約時代の教会の二つの儀式の一つは聖餐式(せいさんしき)と呼ばれる、主イエスキリストが招かれる食卓の儀式です。神様は食事をたいへん大切にされます。そして、聖書の啓示からわかることは、食事の本質は、単なる栄養補給ではなく、食卓を囲む者どうしの愛の交流だということです。

おかあさん。ごはんを作ってください。そして、おとうさんも新聞はたたんで、いっしょに食卓を囲んでください。そんなあたりまえのことが、実は一番たいせつで、そんなあたりまえのことをないがしろにしているから子どもはおかしくなるのです。そのあたりまえのことは神様の定めだからです。現代日本は神の定めにもそむいて、その報いをうけているのです。